

ポートフォリオ・パフォーマンスの決定要因とは？

ビジネスオーナー、また、世の中でプロフェッショナルと呼ばれる方はみなさん、合理的な考えを持っておられます。お金とつき合う場合も、その「合理的な考え」を活用すべきですね。

（しかし残念ながら）多くの方が明確な戦略なしに、投資というフィールドに馳せ参じてしまいます。

（つまり、いきなり投資という「ゲーム」を始めてしまうのです・・・）

世の中では投資の設計図のことを「ポートフォリオ」と呼んでいますが、この設計図を作るためには、まず入念なリサーチをする必要があります。リサーチは大きくふたつの分野に分かれます。

1. 市場・金融商品についてのリサーチ
2. 自分自身へのリサーチ

上記、自分自身へのリサーチのことを、世の中では「ライフプランニング」と呼んでいます。また、ポートフォリオを作るということは（たとえば）リンゴの木を育てる、ということです。

リンゴの木を植えて、収穫するまで何年くらいかかるのだろう、また、一本のリンゴの木から何個くらいの実が取れるだろう・・・ということ想像しながらポートフォリオを作っていたきたいのです。

合理的な投資家は、明確な方法論と規律をその懐に抱えて、淡々と投資を行います。そして、そういう人が資産形成という果実を手に入れているのです。

合理的な考えを持つ者にとって頼もしい投資理論が、この20年あまりで明らかになってきました。それは株式、債券などに資産を配分し、グローバルに投資する手法です。

実はポートフォリオの収益は（その9割以上が）

「どんな株式を買うか？」「いつ買っていつ売るのが？」よりも、

「金融資産をどう組み合わせるのか」＝ アセットアロケーション（資産の配分）

によって決定されています。

これが有名な「ポートフォリオ・パフォーマンスの決定要因」です。
ポートフォリオ・パフォーマンスの決定要因は、1986年、
ブリンソン、ビーバウワー、フッドの三氏により
「ファイナンシャル・アナリスト・ジャーナル誌」に発表された論文です。

この論文は、長期的に見れば、個別銘柄の選択や、
市場タイミングを計る手法は、ポートフォリオの収益には
ほとんど貢献しないことを喝破しています。

実はウォール街や兜町で闊歩する証券マンは今まで、
「資産配分こそが投資の収益を決定する」ということに、墨（すみ）を塗ってきたのです。
なぜなら、個別銘柄を選択しない、市場タイミングを計らない（売り買いをしない）
ということになると、証券会社は商売が成り立たなくなるからです・・・。